

# まほろばの丘から

[文責]

校長 江口 尋信



4月8日、令和6年度が始まりました。1年のはじまりは1月1日「元旦」ですが、始業式の日には学校にとって元旦のようなものです。新しい先生、新しい友達、新しい教科書。そのことは、子どもたちにとって大変大きな意味をもちます。始業式が始まって1週間ですが、子どもたちの引き締まった顔や元気な挨拶に、新年度に対する希望や、やる気を感じます。校門に立っていて、子どもたちの挨拶がとても元気で、圧倒されています。うれしい限りです。子どもたちの新鮮な気持ちが継続するよう、職員一同しっかりと頑張っていきたいと思えます。



3年生から社会科の学習が始まりました。初めて手にする社会科の教科書に子どもたちは興味津々です。



1年生は初めての集団下校です。しばらくは、教師が途中まで送るようにします。そのうち、友達といっしょに、安全に気をつけ、仲良く帰ることができるようにします。

4月は、子どもたちにとって大きく環境が変わる時期です。環境が変わることで、お子さんが学校への登校を渋ることがあるかもしれません。一般的な話になりますが、行き渋りは何らかのサインですので、まずは行き渋っている気持ちを受け止めることが大切だと言われています。気持ちを受け止めるとは、「行きたくないんだね。」「気持ちを言ってくれてありがとう。」などという言葉がそれにあたります。気持ちを受け止めることと、「その内容にYES」ということは違います。「行きたくない」に対して、何も話を聞かずに「じゃあ、休んでいいよ。」と返すと、休ませてはもらったけど、自分の気持ちを受け止めてもらったと感じることはないそうです。一方、子どもの「行きたくない」に対して、何も話を聞かずに「そんなこと言わずに行きなさい。」と返すと、根本的な理由が置き去りにされ、心の状態が悪くなることも考えられます。

気持ちを受け止めた上で、「何かあったの?」と理由を尋ねて、学校に相談をしていただければ、学校と家庭で何ができるのかいっしょに考えていきたいと思えます。担任や養護教諭(保健室の井上先生)、オアシス教室担当(平島先生)など、学校の職員誰でもいいので、ご遠慮なく相談してください。